

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1173200948		
法人名	よしの佐久良有限会社		
事業所名	よしの佐久良 都幾川		
所在地	埼玉県比企郡ときがわ町田中 380-1		
自己評価作成日	平成22年11月10日	評価結果市町村受理日	平成23年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1173200948&amp;SCD=320">http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1173200948&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成22年12月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様個々の生活スタイルを大事にし、利用者様が「自分の家」であると実感できるような環境整備を心掛けるとともに、職員全員が利用者様に対し、「心と愛情」を持って、「目配り」「気配り」「心配り」をするよう努めていること。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所は、四季折々の豊かな自然に囲まれた、静かな環境の中にある2ユニットのグループホームである。ユニット毎に分ける事なく、広い共有スペースを囲むように居室が並んでいる。特別養護老人ホーム、デイサービス、協力医療機関等、関連グループの施設が提携し、医療と介護サービスを提供している。食を中心とした健康の保持、増進、そして予防を第一に心を込めたサービスを提供し、自分の家のように快適で安全な生活の確保の為、様々な業務の効率化を図り、入居者に関わる時間を多くとるようにしている。職員は関連施設での研修の機会もあり、学習の機会に恵まれている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「健康は人生最高の宝」「ご自分の家」「心と愛情」という基本理念を大事にし、生活環境の整備を心がけ、充実した生活が送れるよう全職員で支援している。	法人の基本理念に沿って、ホームに合った実践をしなくてはならないと、現場の会議やミーティング時に職員と検討し、共有、実践している。管理者は、機会を捉えて理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	4月に地元の桃の木まつりに見学に行き、地域の方と交流を図る。また地元の中学校運動会に特別に招待された利用者が参加を実現できるよう双方の調整をする。地元小学校運動会は日程が合わず今回参加せず。	自治会に加入し、地域や地元中学校の行事に入居者と参加している。散歩時に近隣の方と挨拶を交わし、顔馴染みになっている。季節のお花を頂く等の交流もある。町の情報は役場から得ている。	外部に向けての参加は積極的であるが、ホームの行事を地域の方々に案内する等、ホームに来て頂き、認知症に対する理解と支援が得られ、双方向の交流が行われる事が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内外の研修や資格試験等で、認知症に対する理解やその対応も習熟しているが、地域の人への情報発信は、散歩時に認知症の方と地域の方で会話をする程度にとどまっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	11月には、運営推進委員の方にも、自衛消防訓練に参加していただき、防災等の話し合いをする。	今年度は5月、8月、11月に開催した。次回は2月に開催予定である。参加メンバーは、区長、議員、民生委員、近隣住民、職員代表である。議題はホームからの各種報告事項や意見交換等で、11月は地域の方に消防訓練に参加してもらい、感想や意見を聞いた。	3ヶ月に一回開催され、ホームに対する理解と関心を深める取組みが行われているが、家族や包括の担当者等もメンバーに加え、外部評価の公開も行う等、更なる充実が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の福祉課担当者とは、ケアサービス等に関する不明点や疑問点はその都度連絡を取り合っている。	町の担当者には訪問時に実情を見て頂き、話をし、ホームへの理解を深めてもらえるよう努めている。必要に応じて出向いたり、電話で連絡を取合っている。町の担当者とは良い協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて定期的に勉強しており、身体拘束ゼロを実践している。また、玄関の施錠は、施設が車道に面した立地条件のため、利用者の安全を優先し、通常は施錠している。	管理者は、内部研修や現場で一緒にケアをしながら身体拘束への理解を深め、職員はその認識をもち、拘束をしないケアに取り組んでいる。外出願望のある入居者には職員が付き添って外出したり、デッキで外気に触れ気分転換を図ったりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて、定期的に勉強しており、高齢者虐待ゼロを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方に紹介ができるように、受付窓口 にパンフレットを備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約や解約時に十分な説明を行い、利用者 や家族に理解・納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	玄関の受付窓口にて「苦情意見箱」を設置し ている。また、相談窓口及び苦情解決の担 当者、責任者を配置している。	玄関に苦情意見箱が設置されているが、意 見が寄せられる事はない。面会や、月一回の 利用料支払い時の来所の際、管理者や責任 者は意見や要望を聞いている。個別の事柄 が殆どだが、意見は運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個人面接や全体会議において、 職員の意見や提案を聞く機会を設けてい る。	希望者は月一回理事長との個人面接で意見や提 案等を話す機会がある。又、月一回のホームの会 議で職員は意見や要望等を話す機会がある。管 理者は、話し易い雰囲気作りに努め、個々に分担 している業務の意見、提案を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	代表者は常に業界の職場環境や待遇等と 弊社のそれとの比較も行われており、より 良い職場条件となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	内外を問わず、研修の参加を勧めたり、 本人の希望があれば参加に協力したり、 職員の教育に積極的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	よし乃郷グループ内での、病院や特養老人 ホーム等との訪問や交流はされているが、 外部との同業者との会社単位での交流は 少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別対応により、常に同じ目線で、ご本人と話をする機会を多く持つことにより、信頼関係を築くことを第一と考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所・電話・訪問等、状況に応じた対応を心掛け、相手の立場に立って話を聞くことにより信頼関係を築いていくことを第一と考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスが必要と依頼してきたご本人とご家族の現状把握を心がけ、主訴にあった支援を第一に手がけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に同じ目線での対応を基本とし、寄り添うことにより、お互いの関係を築くことを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との間において、常に中立的な立場を維持し、ご家族とその都度話し合いながら、ご本人をより良い形で支援できるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話での交流の支援を行っている。クリスチャンの利用者には、月に一度の礼拝参加に協力している。元長距離ランナーの利用者のコーチ時代の関係者の訪問等も歓迎している。	馴染みの友人、知人等との電話や手紙のやり取りを支援している。お盆やお正月には家族の迎えで出掛け、外泊等もしている。馴染みの美容院に家族と出掛ける方もいて、ホームでは地域や友人、知人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を常に観察することを心掛け、その都度ホールの座席変更や集団レク等での交流を試みて、より良い関係になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特にご家族やご本人が希望される場合は相談や支援を行うよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼されずして本意は把握できないとの考えから、ご本人との接する時間を多く持ち、誠意のある対応を心掛ける。一見しては分からない「心の声」を聴きだせるような対応を心掛ける。	誠意ある対応が信頼に繋がると考え、日々実践している。一日に一度は入居者全員と言葉交わす事を原則とし、思いや意向の把握に努めている。難聴の方とはジェスチャーでコミュニケーションをとったり、筆談での思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時にご本人やご家族から生活暦等を伺うが、入所後もご本人等との対話等で知り得た情報は、随時、会議や申し送り等で全職員が共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、一日の仕事の中で、何かしら18名の利用者全員と係わるよう心掛けておりその日の利用者の状態の良悪を察知できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時や介護度変更時等にケースカンファレンスを行い、ケアマネを中心に介護・看護また本人や家族にもご意見を頂き、より良い介護計画の作成・実行に努めている。	見直しは6ヶ月毎に行い、アセスメントやモニタリングは全員で行っている。家族の希望や意向は面会時や電話で聞いている。状態に変化のあった時は、その都度見直しを行い、計画を作成し、家族に同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の様子は個々にその都度ケース記録に記入され、職員間の情報の共有のため、申し送りや介護計画の見直しに使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間を設定してあるが、ご家族の都合も考慮し柔軟的に対応している。基本的に家族対応の通院等も、場合によっては弊社職員対応で、規定の送迎料金により対処する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月取り寄せている町の広報誌は、俳句等の募集欄があり、利用者の楽しみの一つとなっている。散歩時に近隣の神社や地藏様で拝み、心のよりどころにしている方もいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人が利用していたかかりつけ医に定期的を受診されているケースも数名いる。特に歯科や眼科が多い。内科は基本的に協力医療機関にて週1回の往診をし、一体的に健康管理の連携をとっている。	入居者全員、協力医療機関が家族の同意を得てかかりつけ医となっている。週一回の往診があり、眼科や皮膚科等の受診は基本的に家族が同行しているが、依頼があった場合は職員が対応している。緊急時等の連携もとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職も介護職を兼務しているため、双方の情報伝達はスムーズであり、適切な処置が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院関係者や医師等と、どの程度の入院なのか、治療方針や治療方法等、利用者ができるだけ安心できるように、相談や情報交換をするよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の利用者が心地よく、またより良く暮らせるように、内部研修等で勉強会を行っている。また、運営者や医師、職員等によって、今後の変化への対応について	ホームでは入居時に重度化や終末期の対応について方針を説明し、同意を得ている。早期に家族に相談し、重度化した場合や医療対応になった場合は、一般病院やホスピタルに転院したり、特別養護老人ホームへの入所が出来るよう、常々連携をとり支援している	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修やマニュアルの作成・活用により対応の仕方を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(昼間帯・夜間帯設定)の自衛消防訓練に、職員及び地元の運営推進委員が参加し、通報・非難・消火について学んでいる。	年2回消防訓練を実施し、通報訓練も年数回消防署の理解を得て実施している。11月には地域の運営推進委員参加で実施し、意見や感想を聞いた。災害に備えて、水や米、缶詰、レトルト食品等の備蓄もある。夜間想定訓練も行い、職員全員が避難の方法を身につけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の全体会議や内部研修会等により利用者に対する対応は、その都度、徹底事項として職員に浸透させている。	管理者は、全体会議や内部研修で話をして理解に努めている。排泄や入浴の場面では声掛けや言葉に気をつけ、さり気ない介助を心掛けている。介護以外の業務の効率化を図り、入居者と余裕をもって接する事が出来るよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月に2回、喫茶タイムを設け、好きな飲み物を選んで頂いている。俳句や絵画が好きな利用者は、季節の変化をその人独自の感性で、詠んだり、描いたりされている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレクリエーション等、本人の希望や都合を考慮し、入浴日や時間帯を変更したり、散歩の時間帯を調整したりして、極力希望がかなえられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望により、おしゃれ小物や化粧品がほしい、毛染めやパーマにしたい等の要望がある場合は、家族と連絡をとりあって可能な限り実現できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の「口の体操」や下膳や台ふき等、個々の能力や安全性等を考慮しながら手伝って頂いている。	管理栄養士が作成した献立表により、各施設の食事が提供されている。ホームにも栄養士資格をもった職員がいる。食事は手作りで、入居者は後片付けと一緒にしている。月一回の食事レクは、作る・食べる喜びもあり、好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立表を作成している。また、食事摂取量の記入により、1日の食事量、栄養バランス、水分量を把握。咀嚼、嚥下機能状態により食事形態を分けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。また、入れ歯の方は、夜間ポリドントにて殺菌洗浄(週2)して、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。また排泄係を中心に、入所時におむつ使用の方も、状態を見ながら徐々にトイレ誘導に移行できないかどうか等の検討を行っている。	各居室にはトイレと洗面台があり、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。一対一の自室での排泄ケアが行われ、排泄担当者を中心に自立に向けた検討を定期的に行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らず自然な排便ができるよう取り組んでいる。毎朝、ヨーグルトをメニューに入れ、副食も野菜を多く取り入れている。体操や歩行練習も毎日行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は原則週2回だが、ご本人の都合等により、曜日や時間帯(午前または午後)の変更には柔軟に対応している。	週2回、午前と午後に分け、一日6名の入浴を基本に支援をし、ゆっくりと楽しんでもらっている。一般浴が困難な方には特別浴槽を使用し、体調や気分に合わせて、柔軟に対応している。ゆず湯や入浴剤等で趣を変える工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やベッド周りに、お気に入りの家具や人形・飾り等を置いてリラックスできるような援助をしている。また疲れ気味の場合は時を選ばず、休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師・准看護師を中心に、薬情ファイルをもとに処方薬の理解に努めている。週1回の往診時に、与薬状況と症状の経過を担当医に、必要に応じて報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の能力に合わせ、本人の希望を第一として、洗濯物たたみや植木いじり、また居室での絵画や歌作り等、本人が生きていることを実感できるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は、職員と散歩やテラスに出るよう努めている。また、家族と食事や買物に外出したり、地元の行事や祭り等にも職員または家族と出かけるられるよう支援している。	体調に留意しながら、周辺の散歩やデッキでの日光浴等を行っている。地域の方との交流もあり、玄関前の売店や販売機にも買いに行く。関連施設の車で春にはお花見に出掛ける事もある。出掛けたい希望のある方も数人あるが、家族が食事や買い物に同行してくれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご利用者16名中、5名がお金を所持している。安全性の面から、家族の了解のもと、数万円を上限の目安としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により、ホールの電話をお貸ししたり、郵便物の投函の手助けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎日職員が掃除をしており、ゴミや汚れのないよう努めている。また、ホールには、散歩等で採ってきた野花などを飾り季節感を味わえるような工夫をしている。	2ユニットの入居者が一緒に過ごすリビングは、天窓からの柔らかな光がさし、天井も高く、広くてゆったりとしている。キッチンや事務室からも入居者と職員の様子が互いにわかり、落ち着いて過ごせる空間になっている。入居者の作品や写真が掲示されたり、季節に因んだ装飾がされ、話の材料になっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時以外は、特に居場所を制約せず、気の合った利用者の居室を行き来したりと、個々の行動は自由な雰囲気になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が慣れ親しんだ家具や小物を置いて頂き、できるだけ「自分の家」と感じて頂けるような配慮を、ご本人やご家族と相談しながら工夫している。	自分の部屋がわかりやすいように壁紙やカーテンの色を変える等の工夫がされている。ドアには小窓が四つあり、さり気ない安否確認が出来るようになっている。思い思いの家具が持ち込まれ、個々の入居者らしさがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ごとに、壁紙やカーテンの色柄を変えてあり、自分の部屋と本人が認識できるよう工夫している。また認知障害度により、声かけ方法等を変えて、安心して安全な生活が送れるよう工夫している。		